

## 第4回WG資料

### 1. 見える化状況検査の非標本誤差に関する事項について (第2回WG資料P15及び16の一部) ←

<第2回WG資料> ←

統計精度に関する情報開示基準 (案)

項目	内容
2.1	基本統計に関する説明がない。 基本統計の用語(サンプルサイズ、一次検定手法の属、ロケーションの検定等)が標準化されていない。 基本統計的手法(一次検定手法)の検定手法、一次検定手法の検定手法が標準化されていない。 検定手法について、検定手法が検定手法に、詳細に説明されている。
2.2	検定手法に関する説明がない。 検定手法の検定手法(検定手法)が標準化されていない。 検定手法が標準化されていない。 検定手法が標準化されていない。 検定手法が標準化されていない。 検定手法が標準化されていない。
2.3	検定手法に関する説明がない。 検定手法の検定手法(検定手法)が標準化されていない。 検定手法が標準化されていない。 検定手法が標準化されていない。 検定手法が標準化されていない。 検定手法が標準化されていない。

統計精度に関する情報開示基準 (案)

項目	内容
2.4	検定手法に関する説明がない。 検定手法の検定手法(検定手法)が標準化されていない。 検定手法が標準化されていない。 検定手法が標準化されていない。 検定手法が標準化されていない。 検定手法が標準化されていない。
2.5	検定手法に関する説明がない。 検定手法の検定手法(検定手法)が標準化されていない。 検定手法が標準化されていない。 検定手法が標準化されていない。 検定手法が標準化されていない。 検定手法が標準化されていない。
2.6	検定手法に関する説明がない。 検定手法の検定手法(検定手法)が標準化されていない。 検定手法が標準化されていない。 検定手法が標準化されていない。 検定手法が標準化されていない。 検定手法が標準化されていない。

※ この他に公開状況を把握すべきものはないか。

期待される効果

- ◆ 基準が明確化されること、及び優良事例が明確化されるため、各行省の情報公開に対する自主的な改善の取組が期待できる。
- ◆ 検査官とコミュニケーションをとることで、開示コンテンツに関するアドバイスを受けることができ、経験の浅い職員でも情報公開の対応が進みやすい。

今後精査を行い次回のWGに修正案を示す。 ←

<精査理由> ←

当該基準は、米国基準等を転用したものであるが、一部府省の情報で確認してみると、ほぼ水準0に該当してしまうと予想されるため、現在の実情にあった基準とすることが必要であると判断されるため。

見直し前の基準(第2回WG提示)

水準1を中心に分解しつつ、並び  
 としては標本誤差に対応した  
 「非標本誤差」1項目に集約

標本設計	
水準	基準
0	標本設計に係る説明がない。
1	標本設計の特徴(サンプルサイズ、一次抽出単位の数、ローテーションの状況等)が簡潔に説明されている。
2	標本設計の方法(一次抽出単位の層化の変数と方法、一次抽出単位内での層化と抽出方法等)が説明されている。
3	標本設計について、標本抽出が再現できるほど、詳細に説明されている。

情報収集方法(調査方法)	
水準	基準
0	データ収集に係る説明がない。
1	データ収集の特徴(郵送、オンライン、訪問等)が簡潔に説明されている。
2	データ収集方法がより詳細に説明されている。
3	非回答、アンダーカバレッジ、回答のばらつき等を減らすために講じられるデータ収集の措置(督促方法等)が説明されている。

推計方法	
水準	基準
0	推計に係る説明がない。
1	推計の特徴(参考系列を含む。以下同様。)が簡潔に説明されている。
2	非回答の調整など、具体的な推計方法が説明されている。
3	推計方法について、結果が再現できるほど、詳細に(欠測値や外れ値の処理等)説明されている。

標本誤差	
水準	基準
0	標本誤差に係る説明がない。
1	標本誤差が誤差の1つとして説明されている。
2	代表的な推定値に対して標本誤差(数値)が示されている。その計算方法が説明されている。
3	(ほぼ)全ての推定値に対して標本誤差(数値)が示されている。その計算方法(モデル等)が説明されている。

他統計との比較・分析	
水準	基準
0	他の類似統計(参考系列や標本分布状況を含む。以下同様。)に係る説明がない。
1	他の類似統計との差異について説明がなされている。
2	他の類似統計との比較を示す表や図がある。
3	他の類似統計との詳細な比較分析が行われ、その結果が公開されている。

標本抽出(精度関連情報:非標本誤差)	
水準	基準
0	カバレッジ誤差に係る説明がない。
1	・カバレッジ誤差が非標本誤差の1つとして明確に言及されている。 ・目標母集団及び母集団名簿(事業所母集団DB等)が明確に説明されている。
2	カバレッジ率等、全体のカバレッジに係る状況が数値で提供されている。
3	部分母集団のカバレッジに係る状況が数値で提供されている。

回収状況(精度関連情報:非標本誤差)	
水準	基準
0	非回答誤差に係る説明がない。
1	全体の(調査単位)非回答率(又は回答率)が、定義とともに、提供されている。
2	・調査事項の非回答率が、定義とともに、提供されている。 ・重み付き・重み無し調査単位非回答率が、定義とともに、提供されている。
3	・部分母集団の非回答率が、定義とともに、提供されている。 ・欠測値補完方法が説明されている。

データ処理方法(精度関連情報:非標本誤差)	
水準	基準
0	データ処理による誤差に係る説明がない。
1	データ処理による誤差が明確に言及されている。
2	データ処理による誤差の詳細な要因が説明されている。
3	・データ入力エラー率、格付けエラー率が提供されている。 ・編集ミス率がまとめられている。 ・外れ値の処理方法が説明されている。

調査票の構成等の影響(精度関連情報:非標本誤差)	
水準	基準
0	測定誤差に係る説明がない。
1	測定誤差が明確に言及されている。
2	測定誤差の詳細な要因が説明されている。
3	測定誤差についての研究が実施され、その結果が公開されている。

測定誤差とは、調査票のデザイン・内容・言葉遣い、調査方法(郵送か調査員か等)、調査員の質、委託先の質、回答者の経験・知識・態度などによって生じる誤差



見直し結果の結論はP4

# 確認する事項を抽出(水準1を中心に)

## 標本抽出(精度関連情報:非標本誤差)

水準	基準
0	カバレッジ誤差に係る説明がない。
1	・カバレッジ誤差が非標本誤差の1つとして明確に言及されている。 ・目標母集団及び母集団名簿(事業所母集団DB等)が明確に説明されている。
2	カバレッジ率等、全体のカバレッジに係る状況が数値で提供されている。
3	部分母集団のカバレッジに係る状況が数値で提供されている。

- 目標母集団と母集団名簿の差異(カバレッジ誤差)がある場合、その差異について、言及されている。
- 目標母集団及び母集団名簿(事業所母集団DB・行政記録情報等)が説明されている。

## 回収状況(精度関連情報:非標本誤差)

水準	基準
0	非回答誤差に係る説明がない。
1	全体の(調査単位)非回答率(又は回答率)が、定義とともに、提供されている。
2	・調査事項の非回答率が、定義とともに、提供されている。 ・重み付き・重み無し調査単位非回答率が、定義とともに、提供されている。
3	・部分母集団の非回答率が、定義とともに、提供されている。 ・欠測値補完方法が説明されている。

- 統計作成のために得られた調査単位の回答状況を示す定量的な指標(回答数・非回答数・回収率など)が説明されている。
- 非回答を減じるための対応(督促の実施など)が説明されている。
- オンライン調査による提出状況を示す定量的な指標(オンライン回答数・オンライン提出率など)が説明されている。
- 欠測値に対する集計上の対応が説明されている。

## データ処理方法(精度関連情報:非標本誤差)

水準	基準
0	データ処理による誤差に係る説明がない。
1	データ処理による誤差が明確に言及されている。
2	データ処理による誤差の詳細な要因が説明されている。
3	・データ入力エラー率、格付けエラー率が提供されている。 ・編集ミス率がまとめられている。 ・外れ値の処理方法が説明されている。

- データ処理による誤差(入力エラー・アフターコード(格付け)エラー・編集エラーなど)が説明されている。
- データ処理による誤差を減じるための対応(ベリファイの実施など)が言及されている。
- 外れ値における集計上の対応が説明されている。

## 調査票の構成等の影響(精度関連情報:非標本誤差)

水準	基準
0	測定誤差に係る説明がない。
1	測定誤差が明確に言及されている。
2	測定誤差の詳細な要因が説明されている。
3	測定誤差についての研究が実施され、その結果が公開されている。

測定誤差とは、調査票のデザイン・内容・言葉遣い、調査方法(郵送か調査員か等)、調査員の質、委託先の質、回答者の経験・知識・態度などによって生じる誤差

- 調査票のデザイン・内容・言葉遣い、調査方法(郵送か調査員か等)、調査員の質、委託先の質、回答者の経験・知識・態度などによって生じる誤差(測定誤差)が言及されている。

- 非標本誤差の要因の研究分析・非標本誤差の修正等に関する研究分析の結果が公開されている。

# 見直し案

- 目標母集団と母集団名簿の差異(カバレッジ誤差)がある場合、その差異について、言及されている。
- 目標母集団及び母集団名簿(事業所母集団DB・行政記録情報等)が説明されている。

- 統計作成のために得られた調査単位の回答状況を示す定量的な指標(回答数・非回答数・回収率など)が説明されている。
- 非回答を減じるための対応(督促の実施など)が説明されている。
- オンライン調査による提出状況を示す定量的な指標(オンライン回答数・オンライン提出率など)が説明されている。
- 欠測値に対する集計上の対応が説明されている。

- データ処理による誤差(入力エラー・アフターコード(格付け)エラー・編集エラーなど)が説明されている。
- データ処理による誤差を減じるための対応(ベリファイの実施など)が言及されている。
- 外れ値における集計上の対応が説明されている。

- 調査票のデザイン・内容・言葉遣い、調査方法(郵送か調査員か等)、調査員の質、委託先の質、回答者の経験・知識・態度などによって生じる誤差(測定誤差)が言及されている。

- 非標本誤差の要因の研究分析・非標本誤差の修正等に関する研究分析の結果が公開されている。

## 非標本誤差 スコアリング基準

左の11項目の非標本誤差等に関連する情報提供状況について、該当する項目の数により評価。

水準	該当項目の数
0	0~2
①	3~5
2	6~8
3	9~11

個々の該当の有無状況も統計委員会に報告